

地域に定着する放射線治療医養成 WG

領域 1 高精度放射線治療を担う人材の育成「ワークショップ 1」を開催しました

地域に定着する放射線治療医養成 WG が開講する、緩和的放射線治療・密封小線源治療・高精度放射線治療の質の向上と普及を担う人材養成コース
領域 1「高精度放射線治療を担う人材の育成」において、「ワークショップ 1」を開催しました。

Radiation Therapy Program Intensive Course

単回受講可
参加費無料

単回受講申込フォーム
申込締め切り
1月16日(金) 17時

次世代のがんプロフェッショナル
養成プラン

放射線治療プログラムインテンシブコース

1月23日(金) 18:30~19:50 (Zoom開催)
領域1《高精度放射線治療を担う人材の育成》ワークショップ1

「参加各施設の放射線治療領域の現状
と問題点ーマシンQAー」

【座長】国際医療福祉大学 河野 良介 先生
順天堂大学 飯島 康太郎 先生

がんプロ養成プランHP お問い合わせ用フォーム

対象者 医療従事者(医師、看護師、放射線技師、医学物理士、他)及び大学院生

連絡・問い合わせ先
順天堂大学放射線治療学講座
TEL.03-5802-1230 (放射線科医局)
担当者 鹿間 直人、島村 彩子、遠藤 純子

共催: 順天堂大学大学院医学研究科

このプログラムは文部科学省補助金事業
「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」
の助成を受けて開講致します

後援: 順天堂大学 次世代のがんプロフェッショナル養成プラン

ワークショップ 1

1月23日(金) 18:30~19:50 (Zoom開催)

テーマ「参加各施設の放射線治療領域の現状と問題点 -マシン QA-」

講師: 黒河 千恵先生、井上 達也先生 (順天堂大学)

野武 亮一先生 (東京科学大学)、松元 佳嗣先生 (東海大学)

座長: 河野 良介先生 (国際医療福祉大学)、飯島 康太郎先生 (順天堂大学)

要旨: 高精度放射線治療を安全に実施するためには、治療装置(リニアック)の性能を適切に維持・管理することが不可欠であり、定期的なマシン QA は強く推奨される重要なプロセスです。マシン QA の項目や頻度、許容値、測定方法は、各施設の装置や運用体制、測定機器、治療技術により異なるため、標準化と効率化の両立が継続的な課題となっています。

本ワークショップではまず、マシン QA の基本概念と、4 種類のリニアックの日毎/月毎/年毎における代表的な点検項目について、講師の方に講演をして頂きました。その後、参加者より自施設での実務上の問題点を挙げて頂き、効率的な QA 方法など今後の施設運用の改善策について議論をしました。

参加者は 124 名でした。

地域に定着する放射線治療医養成 WG

領域 1 高精度放射線治療を担う人材の育成「ワークショップ 2」を開催しました

地域に定着する放射線治療医養成 WG が開講する、緩和的放射線治療・密封小線源治療・高精度放射線治療の質の向上と普及を担う人材養成コース
領域 1「高精度放射線治療を担う人材の育成」において、「ワークショップ 2」を開催しました。

Radiation Therapy Program Intensive Course

単回受講可
参加費無料

単回受講申込フォーム
申込締め切り
1月22日(木) 17時

次世代のがんプロフェッショナル
養成プラン

放射線治療プログラムインテンシブコース

1月29日(木) 18:30~19:50 (Zoom開催)
領域1《高精度放射線治療を担う人材の育成》ワークショップ1
「IGRTのタスクシフトを放射線腫瘍医と考える」

【座長・講師】
順天堂大学 小杉 康夫 先生
杏林大学医学部附属病院 水野 将人 先生
東京科学大学病院 野武 亮一 先生
がん研有明病院 高橋 太郎 先生
東海大学医学部付属病院 広木 智之 先生

がんプロ養成プランHP
お問い合わせ用フォーム

対象者 医療従事者(医師、看護師、放射線技師、医学物理士、他)及び大学院生

主催: 順天堂大学大学院医学研究科
協賛: 順天堂大学放射線治療学講座
TEL.03-5802-1230 (放射線科医局)
担当者: 鹿間 直人、島村 彩子、遠藤 純子

このプログラムは文部科学省補助金事業
「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」
の助成を受けて開催致します

後援: 順天堂大学 次世代のがんプロフェッショナル養成プラン

ワークショップ 2

1月29日(木) 18:30~19:50 (Zoom開催)

テーマ「IGRTのタスクシフトを放射線腫瘍医と考える」

講師: 小杉 康夫先生(順天堂大学)、広木 智之先生(東海大学)

高橋 太郎先生(がん研有明病院)、水野 将人先生(杏林大学)

座長: 野武 亮一先生(東京科学大学)

要旨: 放射線治療を安全に実施するためには、画像誘導放射線治療(IGRT)による正確な患者位置照合を行い、日々の幾何学的な不確かさを管理することが不可欠です。一方で、治療装置の高精度化に伴い、IGRTに関連する業務の負担は増大しており、限られた人員の中で品質を担保する運用体制の整備が課題となっています。このような背景から、放射線腫瘍医と診療放射線技師の役割分担を明確化し、標準化された手順と教育体制のもとでIGRT業務の一部を適切に移管する「タスクシフト」が注目されています。

本ワークショップでは、IGRTのタスクシフトの現状と課題、ハイボリュームセンターにおける診療放射線技師のIGRT教育について講義を行いました。その後、参加施設より集めたIGRTのタスクシフトに関するアンケート結果から、本邦におけるIGRTの運用状況を共有し、放射線腫瘍医と診療放射線技師がタスクシフトを進める上で重要となる実務上の課題と対策を議論しました。

参加者は150名でした。